令和元年　１１月　２９日

平成３１年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成３１年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成31年4月18日（木）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　１５人

②　算数　　１５人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており，実施教科が国語，算数，理科の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

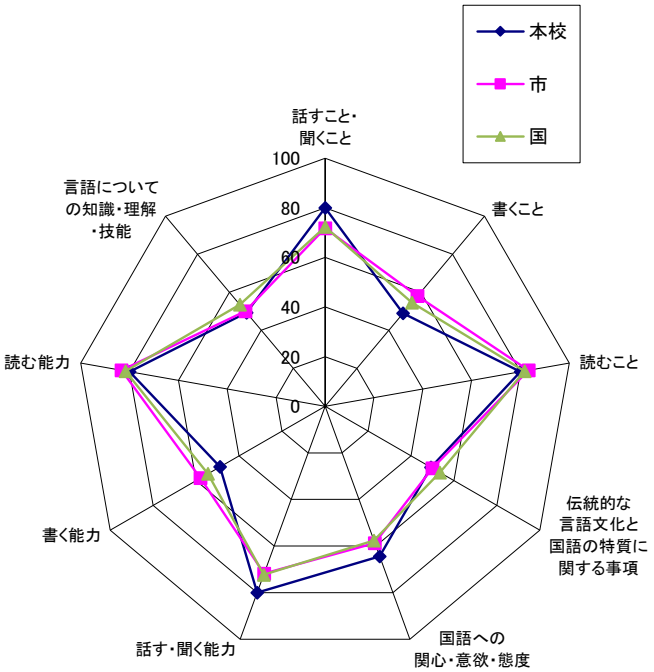
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山西小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	80.0	71.8	72.3
	書くこと	48.9	58.0	54.5
	読むこと	80.0	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	49.3	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	64.4	58.7	57.6
	話す・聞く能力	80.0	71.8	72.3
	書く能力	48.9	58.0	54.5
	読む能力	80.0	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	49.3	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

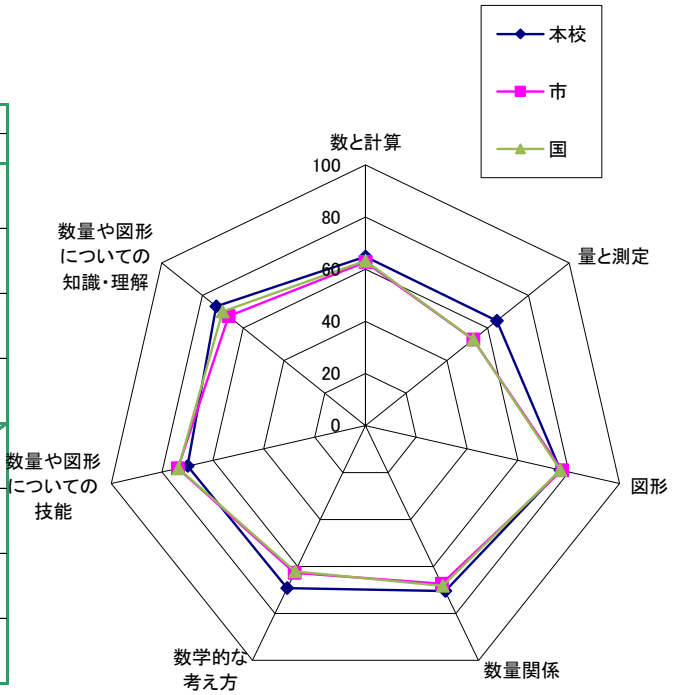
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は，80.0%と県・全国平均を上回っている。 ○「話し手の意図を捉えながら聞き取る」設問では，県・全国平均を大きく上回った。これは，相手の気持ちを考えながら行動するなど日頃の人間関係が安定していることを表している。 ●「目的に応じて質問の工夫を選択する」設問では，県・全国平均をやや下回り課題が見られる。	・会話科や総合的な学習の時間など他教科との関連を図りながら，話合い活動を充実させ，全員が司会の役割を経験する機会を今後も設けていく。 ・総合的な学習の時間などと関連させ，ボランティアの先生へのインタビューで，話し手の意図を捉えながら話を聞いたり，質問したりできるよう指導の充実を図るようにする。
書くこと	平均正答率は，48.9%と県・全国平均を下回っている。 ●「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」設問では，県・全国平均を下回ったことから，資料の読み取りが課題となっている。また，「目的や意図に応じて，自分の考えの理由を明確にし，まとめて書く」設問も県・全国平均を下回り課題が見られる。	・各教科で自分の考えを書く活動を充実させてきているが，今後も他教科他領域とも関連付けながらグラフや表などを用いて言語活動を行わせたり，情報を分析させ，それをもとに記述させるなどの指導を充実させるようにする。さらに，書くための言語力を身に付けさせるため，読書活動にも力を入れていく。
読むこと	平均正答率は，80.0%と県・全国平均を下回っている。 ○「目的に応じて，文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを書く」設問や「選んだ本の目次から読むページを選択する」設問では，県・全国平均を上回った。 ●「目的に応じて，文章の内容を的確に押さえ，適切なものを選択する」設問では，県・全国平均をかなり下回った課題が見られる。	・読書好きな児童が多いので，今後も読書活動を奨励すると共に読むジャンルの幅を広げていくように働きかけ，人物の心情を読み取ったり情景描写を味わったりする機会を設け，物語文での読み取りの力も育てていく。 ・説明文や解説文，新聞のコラムなどを読む機会が少ないため，こうした読み物資料も意図的に提供して，様々な表現の工夫に触れさせる機会を作る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は，49.3%と県・全国平均を下回っている。 ○「文の中で漢字を使う(友達にかぎらず)」の設問では県・全国平均を上回った。また，「文の中で漢字を使う(かんしんをもってもらいたい)」の設問では，県平均を上回った。 ●「文章の1文を接続語を使って2文に分けて書き直す」設問や「ことわざの使い方の例として適切なものを選択する」設問で課題が見られる。	・漢字の読み書きについては，今後も小テストなどを通して繰り返し練習させる。また，全校体制で行っている漢字書き取りチャンピオン大会にも目標をもって挑めるよう指導の充実を図り，漢字を適切に使えるようにしていく。 ・図書室を利用する際にことわざや故事成語に関する本などを紹介して，慣れ親しむとともに，例文づくりをしたり，時と場に応じて当てはめたりして理解を深めていく。

宇都宮市立城山西小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	64.8	62.7	63.2
	量と測定	64.4	52.9	52.9
	図形	76.7	77.3	76.7
	数量関係	70.5	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	69.2	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	70.0	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	73.3	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，64.8%で県・全国平均をやや上回った。 ○「示された場面において，複数の数量から必要な数量を選び，立式する」設問では，県と全国の平均を大きく上回った。 ●「2010年の水の使用量が1980年の使用量の約何倍かを棒グラフから読み取る」設問では，県・全国平均を下回った。	・計算のきまりが使えずに誤答している児童が見られることから，複数の計算方法が入っている計算をする際には，「計算のきまり」の確認をしてから取り組む機会を意図的に入れていき，正しく使って計算できるようにしていく。 ・資料をもとにそこから考えられることを，「必要な計算を行って求めること」を苦手としている児童が見られることから，授業の中で，資料から読み取れる数値間の関係を考えたり，そこから必要な情報を得るために立式したりすることを丁寧に確認していくようにする。
量と測定	平均正答率は，64.4%で，県・全国平均を上回った。 ○どの設問も県・全国平均を上回っている。特に，「資料の特徴や傾向を関連付けて，一人当たりの水の使用量の増減を判断し，その理由を記述する」設問では，正答率が，県・全国平均を大きく上回った。	・全体として正答率は高いことから，習熟を図れていると考えられる。そこで，今後もさらに習熟を図っていけるように，問題に対する答えの理由を式や文章で根拠を明確にして記述できるように投げ掛けていく。 ・全体の正答率が高い中で総合得点が高い児童に誤答している児童が複数見られた。直感で回答するだけでなく，文意や状況をじっくり考える習慣を付けていくようにする。
図形	平均正答率は，76.7%で県・全国平均と同程度だった。 ●図形に関する二つの設問は，どちらも県・全国平均と同程度であるが，「台形についての理解」を見る設問の正答率が90%を超えている反面，「図形の性質や構成要素に着目し，他の図形を構成することができる」かを見る設問では，正答率が低くなっている。	・基礎的な問題の正答率は高いことから，今後も補充プリントを活用して習熟を図っていくようにする。 ・発展的な問題や記述を要する問題においては，正答率が低くなっていることから，単一の図形を用いた学習だけでなく，図形の性質や構成要素に着目して，図形同士の関係を考える機会を多くもつことで，図形についての見方や考え方を使えるようにしていく。
数量関係	平均正答率は，70.5%で，県・全国平均をやや上回っている。 ○「棒グラフから，資料の特徴や傾向を読み取る」設問では，すべての児童が正答していた。 ●「2010年の水の使用量が1980年の使用量の約何倍かを棒グラフから読み取る」設問では，県・全国平均を下回った。（「数と計算」で示した設問と共通領域）	・資料の特徴や傾向を読み取る力が高まってきていることから，今後も様々な資料に触れる機会をもつとともに，そこからどんな情報が得られるかなど考えていくようにすることで，さらに資料を読み取る力を高めていけるようにする。 ・資料をもとにそこから考えられることを，「必要な計算を行って求めること」を苦手としている児童が見られることから，資料の特徴や傾向だけを読み取る基礎的な力だけではなく，発展的な問題に取り組ませることで，具体的なデータを基に必要な情報を求めることができるようにしていく。

宇都宮市立城山西小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがありますか」の項目において，肯定的回答が100%であった。「自分にはよいところがあると思いますか」「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の項目において，県・全国平均を大きく上回っており，児童の自己肯定感が十分育まれているといえる。
○「学校に行くのは楽しいと思いますか」「学校の決まりを守っていますか」「人が困っているときは，進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目において，県・全国平均を大きく上回っている。自己肯定感が高いため，穏やかな学校生活や対人関係が成立していると考えられる。
○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」「日本やあなたが住んでいる地域のことについて，外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」の項目において，肯定的回答が県・全国平均を大きく上回った。日頃からの地域・保護者との連携の結果，地域への愛着心が育まれていると考えられる。
○「外国の人と友達になったり，外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」の項目において，肯定的回答が県・全国平均を大きく上回った。本校の特色の一つである外国語活動の成果が表れている。
○「国語・算数の勉強が好きですか」「国語・算数の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか」の項目において，肯定的回答が県・全国平均を上回った。学習に対して肯定的に捉え，前向きに学習している様子が表れている。
●「毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日，同じくらいの時刻に起きていますか」の項目において，肯定的回答が県・全国平均をやや下回った。家庭科や保健体育の授業で自身の生活を振り返る機会をもたせたり，養護教諭との連携を図図ったりして，規則正しい生活習慣が身に付けられるよう継続してはたらきかけていく。
●「家の人と学校での出来事について話をしますか」の項目において，肯定的回答をした児童がほどんどだったが，肯定的回答をしていない児童が，県・全国平均を上回った。懇談会や学年だよりを使って話題提示をするとともに，家庭における児童との接し方について保護者にはたらきかけやお願いをしていく。
●「解答時間は十分でしたか」の項目において，国語の解答時間が足りなかったと感じている児童が県・全国平均を大きく上回った。全ての資料に目を通していくのではなく，まず何を問われているのかを把握し，その上でどの資料を熟読すればよいのか判断できるよう，「解き方の指導」もしていく必要がある。

宇都宮市立城山西小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
聴く指導	相手理解を意識した「聴く」態度を醸成する。言語活動の指導に力を入れ，ペアやグループでの話し合いを積極的に取り入れることで，自分の考えをまとめ表現する機会をできる限り多く設定するようにして，考えながら聴くことを意識させる。	6年生において，話し手の意図を捉えながら聞いて，質問したり自分の考えをまとめたりする力が十分身に付いているといえる。小規模特認校としての本校の特色を生かし，少人数で安定した人間関係が築かれてきたことで，発言しやすい学級の雰囲気ができ，話合い活動の充実が図られてきたからだと考えられる。
分かる授業の実現	学びのゴール（目標）を明確に示し，見通しをもった学びができるよう，めあての提示をしていく。また，授業ごともしくは単元ごとの振り返りでは，どのような視点で振り返りを行うのかを明示し，振り返り活動の充実を図る。それにより，授業で児童が何を学び自身がどう変容したのかを実感できるようにする。	質問紙調査において，各教科の学習や，その必要性，理解度について，肯定的回答をしている児童がほとんどだった。教科における回答状況を見ると，児童の個人差が大きく，集団内でのばらつきが大きかった。
家庭学習の充実	地域学校園で「宿題プラス1」を合言葉とした取組を実施している。授業の中で問題解決力を高める指導（自分で類題やさらなる調べができる，間違いを自分で確かめて直せる等）をすることで，自ら主体的な学びができるようにしていく。	家庭学習に取り組む習慣は付いているが，個々の興味関心をもとに学習内容を選んでいるため，学習内容に偏りがある児童も見られる。「読むこと」の分野において，県・全国平均を下回ったため，家庭学習において，新聞記事をまとめる学習や，関心のある事柄について資料を用いてまとめる学習を取り入れるようはたらきかけていく必要がある。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
他の質問項目と比較して，自分の考えを話したり書いたりするとき，うまく伝わるように工夫しているという質問に肯定的回答をした児童がやや少なかった。児童自身に課題意識があるため，今後も継続して基礎・基本の学力の定着に一層力を入れるとともに，言語感覚を養い，書いたり話したりする力を身に付けさせていく。	書く力を養うために，基礎・基本の学力を定着させ，言語感覚を養うための取組みをしていく。	文字数制限や段落構成の条件，必須で書く単語や内容の設定を行い，与えられた条件に合致させながら書く経験を積ませていく。各学年の発達段階に応じて，徐々に条件の難易度を高めていき，段階的に力が付くようにしていく。様々な表現に触れ，語彙力を高めるため，低学年では読み聞かせの時間を確保したり，中高学年では辞書引き学習や日記を自主学習の一環として取り入れたりしていく。さらに言語感覚を養っていくため，日常生活においても正しい言葉遣いについて指導したり，日記や振返り活動においても正しい文章表現について指導する機会を設けたりして，全職員が学校の教育活動全般を通してはたらきかけていく。